社会医療法人社団 三思会 とうめい厚木クリニック
地域とともに歩む医療 健康をつくり守る医療



とうめい news ニュース

2026.11.1 Vol.303

〒243-0034 厚木市船子237
TEL. 046-229-3377
発 行 者：河野 昌史
編集責任者：林田 朋子
印 刷：(有)タイム21
ホームページアドレス http://www.tomei.or.jp/clinic/

11月の歳時 立冬・七五三

11月の和名は「霜月」。霜が降り始める頃という意味があり、暖かな小春日和と寒い日を繰り返しながら立冬を境に暦の上では冬の季節が始まります。七五三は平安時代の頃から宮中で行われていて、子どもが無事に育った大きな喜びと、成長を願い節目に神様に感謝をすると言う由来です。

心房細動について

循環器科：日下部 裕胤

TOPICS



心房細動は、心臓の「心房」と呼ばれる部分が不規則に細かく震えることで、脈が乱れる不整脈の一つです。不整脈と聞くと「心臓が止まってしまうのでは」と心配される方もいますが、心房細動そのものですぐに命にかかわることは多くありません。一方で、放置すると脳梗塞や心不全などにつながることがあるため、適切な診断と治療が大切です。心房細動は年齢とともに増加し、高血圧、糖尿病、肥満、睡眠時無呼吸症候群など、さまざまな病気や生活習慣とも関係しています。

代表的な症状は、動悸や脈の乱れ、息切れ、胸の不快感、疲れやすさなどです。しかし、心房細動があっても、自覚症状がほとんどない方もいます。健康診断で「脈が不規則」と指摘されたり、血圧計やスマートウォッチの通知をきっかけに見つかったりすることもあります。症状がないからといって、必ずしも放置してよいわけではありません。

心房細動で特に注意したいのが「脳梗塞」です。心房が十分に収縮しなくなると、心臓の中で血液がよどんで血のかたまり（血栓）ができることがあります。その血栓が脳の血管に流れて詰まると、脳梗塞を引き起こします。そのため、年齢や高血圧、糖尿病、脳梗塞の既往などから脳梗塞の危険性を評価し、必要な方には血液を固まりにくくする「抗凝固薬」を使用します。

治療は脳梗塞を予防するだけではありません。脈が速い場合には薬で心拍数を調整したり、正常な脈に戻して維持するために薬物治療やカテーテルアブレーションを行ったりします。カテーテルアブレーションは、足の付け根などの血管から細い管を心臓まで進め、心房細動の原因となる異常な電気信号を治療する方法です。現在では治療技術も進歩し、患者さんの年齢、症状、心房細動の状態などに応じて治療方法を選択します。

また、高血圧や肥満、飲酒、運動不足などの改善も心房細動の治療では重要です。心房細動は一度治療すれば終わりという病気ではなく、その後も定期的に状態を確認していくことが大切です。

「最近、脈が飛ぶ感じがする」「急にドキドキする」「以前より息切れしやすい」と感じる方や、健診などで不整脈を指摘された方は、一度循環器科へご相談ください。心電図などの簡単な検査から診断につながることがあります。心房細動を早く見つけ、ご自身に合った治療を受けることが、脳梗塞や心不全を防ぎ、これからの生活を守ることにつながります。

